

学サポ × 図書館

※お申し込み不要

『読書人カレッジ』開催!

戦争とメディア～イラクとウクライナの取材現場から

11月6日(月)16時30分～18時

@8101教室

※Zoom参加も可能です。URLは後日e-passでお知らせします。

今回はライブ配信のみで、後日の録画配信はありません。



講師 綿井 健陽 先生

(ジャーナリスト、映画監督)

1971年大阪府生まれ。98年からアジアプレスに参加。東ティモール独立紛争、米国同時多発テロ事件後のアフガニスタン、イスラエルのレバノン攻撃など、世界の紛争・戦争地域を取材、ニュースリポートやドキュメンタリー番組を制作。イラク戦争報道で「ボーン・上田国際記者賞」特別賞、「ギャラクシー賞」報道活動部門・優秀賞など。ドキュメンタリー映画『Little Birds イラク 戦火の家族たち』(2005年)『イラク チグリスに浮かぶ平和』(2014年)を撮影・監督。著書に『リトルバーズ 戦火のバグダッドから』(晶文社)、共著に『ジャーナリストはなぜ「戦場」へ行くのか』(集英社新書)など。2022年から今年にかけては、ウクライナ戦争を取材。

公式HP: <http://www1.odn.ne.jp/watai/>

2001年の「911米国同時多発テロ事件」発生以降、アフガニスタン、イラク、ウクライナ等の戦争取材を経験してきた立場から、戦争報道の現状を映像や写真を交えてお話します。日本のメディアは、紛争・戦争現場から何を伝えてきたのか、そして何が伝えられなかったのか。これまでの報道の歴史や海外メディアの戦争報道も比較しつつ、紛争や戦争が起きている現場から、メディアは何を伝えるべきなのか。報道・ジャーナリズムは何ができるのか。学生の皆様とともに、検証と議論をしたいと思います。



「読書人カレッジ」で「本を読むこと」「文章を書くこと」、 そして「表現をすること」の楽しさ、奥深さを再発見!



本は小さな「どこでもドア」です。新たな本を開くたびに、新たな世界が開かれます。すぐれた小説がそうであるように、その世界をわたしたちは——いま・ここにいながらも、ひとときの間——「生きる」ことができます。そうしてわたしたちは、ひとの心や想いについて、過去や異郷の出来事と暮らしについて、身のまわりで起きていることやこれから起きるかもしれないことについて、深く知ることができるようになります。

もっとも、それはたんに知識が増えるということではありません。なぜなら本を読み終える——「どこでもドア」の向こうから帰ってくる——ごとに、わたしたちは人間を、世界を、新たな目で見ることができるようになっているからであり、またそれゆえに、一人ひとりが新たな「わたし」に——そうとは気づかないうちに——変わってもいるからです。

その意味で、読書とは本来、愉悦に満ちた経験のはずなのです。また「大学での学び」にも読書は欠かせません。しかしその理由は、課題やレポートのために必要だから、というだけではありません。「大学での学び」の目的が、知識だけではなく、すぐれた知性と豊かな感性も身につけることにあるから——言い換えれば、「思考する力」と「他者を想う力」を養い、そうして「自分の人生を自分で切り拓いていく力」を身につけることにあるから——なのです。

学サポ×図書館の企画『読書人カレッジ』は、皆さんがそうした知性と感性、力を身につけていくための手がかりを提供します。この機会に「本を読むこと」の、そして「文章を書くこと」「表現をすること」の本来の意味と楽しさに、あらためて目を向けてみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

学サポ×図書館 スタッフ一同



お問合せ: 東洋英和女学院大学 学習サポートセンター (gakusapo@toyoeiwa.ac.jp)